



「ゆらぎツリー」2010 年度設置作品 (墨田区)



「GTS Bench」2010 年度設置作品

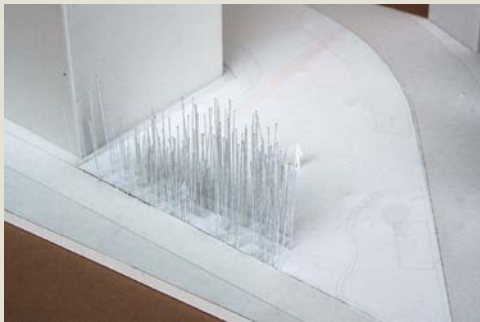
TOPICS OF  
FINE ARTST

2011.02 - 07

# 美旬



「イメージマケット1」2011年度設置作品



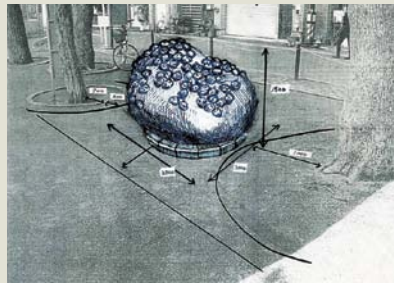
「イメージマケット2」2011年度設置作品



「LOOK」2010年度設置作品(台東区)



「イメージドローイング3」  
2011年度設置作品



「イメージドローイング2」  
2011年度設置作品



「イメージドローイング1」  
2011年度設置作品

## 1

### GTS(藝大・台東・墨田) 観光 アートプロジェクト2011

昨年度に引き続き、本学と台東区、墨田区の三者の共催による地域連携事業『GTS 観光アートプロジェクト2011』が実施される。

このプロジェクトは、平成二十二年度から二十四年度までの三年間の計画で、東京スカイツリーのビューポイントに環境アート作品やアートベンチなどを設置する「アート環境プロジェクト2011」と、地域での現代芸術展、映像展や音楽コンサートの複合的な展開をおこなう「隅田川 Art Bridge 2011」の二つの事業を軸に構成され、東京スカイツリーと浅草を結ぶ隅田川両岸地域に展覧会場を点在させ、「記憶・場・歴史・コミュニケーション」のテーマに沿った企画展やイベントを開催する。

実施に先駆け、七月十六日から二十九日には今年度新たに設置される環境アート作品四点とアートベンチ・サインの制作過程を区民に公開する「マケット・プランニング展(前期)」、また、七月二十三日には小中学生を対象にした区民参加ワークショップ「東京スカイツリーを描く、東京スカイツリースポットを探せ!」が前述の地域を舞台に実施された。





保存修復彫刻研究室 研究報告発表展  
産経学園・銀座おとな塾における展示風景

2

## 保存修復彫刻研究室 研究報告発表展

四月二十日から二十四日までの間、産経学園・銀座おとな塾において、本学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室が研究報告発表展を開催した。

本展では、保存修復彫刻研究室において、平成二十二年度に教員及び学生が修復した仏像などの彫刻文化財や模刻作品を展示し、さらに、彫刻に限らず、日本画や工芸分野の模写・模造作品の展示、油画・建造物・保存科学分野の研究発表なども併せておこなった。また、会期中には、実際の修復や研究の担当者によるわかりやすい研究報告トークもおこない、普段見ることのない文化財修復現場の裏側をのぞくことができた。

保存修復彫刻研究室 HP

<http://www.tokyogeidai-hozon.com>

3

## アジア総合芸術センター 美術学部交流事業 「伝統と現代」展

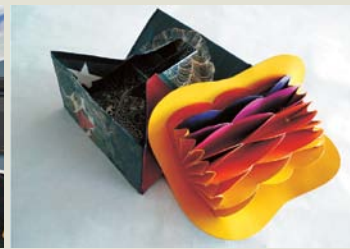
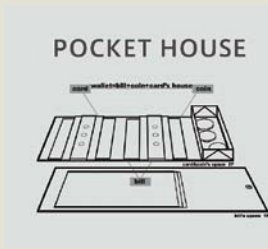
五月十二日から六月十九日までの間、本学大学院美術館陳列館で、アジア総合芸術センター美術学部交流事業「伝統と現代」展を開催した。

本展は二部構成で、第一部は中国中央美術学院潘公凱院長による墨と映像の芸術表現、第二部は本学と中国中央美術学院の若手教員などが参加し、内在する伝統を現代表現として作品化したドローイング作品約五十点による「伝統・現代・発生」ドローイング展であった。開催に



アジア総合芸術センター美術学部交流事業「伝統と現代」展  
右：大学美術館陳列館における展示風景 左：潘院長による作品の公開制作風景

3



「saif PROJECT」—台東区地場産業の芸術による活性化の研究発表展—

右上：「隠喩/metaphor」 右下：「装飾/décor」 左上：「素材/material」 左下：「空間/space」

4

4

## 「saif PROJECT」 —台東区地場産業の芸術による 活性化の研究発表展—

三月三十日から四月十七日までの間、本学藝大アートプラザにて「saif PROJECT」—台東区地場産業の芸術による活性化の研究発表展—を開催した。

本学と台東区は、伝統ある地場産業である皮革産業と連携し、高い付加価値のある新製品を目指すプロジェクトを実施している。今回は、皮革製品の中でも最も身近なアイテムである「財布」に焦点をあて、装飾/décor（工芸科染織研究室）、素材/material（工芸科彫金研究室）、隠喩/metaphor（デザイン科機能・設計研究室）、そして、空間/space（デザイン科空間・設計研究室）の四つの研究テーマから既成のスタイルにとらわれない新しい「財布」を提案することを目的とし、展示販売会を開催した。

伴い、「現代美術の東洋的なものや伝統について—美術における伝統的な要素を現代芸術の中でどのように展開すべきか、考えるべきか—」をテーマとしたシンポジウムが開催され、また、震災復興支援のための慈善パフォーマンスとして、潘院長による作品の公開制作が行われた。潘院長は「鎮定勇毅」という書をしたため、「心は冷静沈着でありつつ、勇敢且つ力強く未来に進んでほしい」と日本へ向けてのメッセージを述べられた。

潘院長から宮田亮平学長へ記念作品が贈られるなど、改めて本学と中央美術学院との古く長い友好関係と、日本と中国の文化芸術分野における深い絆が確かめられる催しとなった。





藝大プロジェクト2011「元禄～その時、世界は？」

上:「江戸の音風景～歌舞伎と文楽」 下:「琳派の美、ロココのころ」

1

TOPICS OF  
MUSIC

2011.02 - 07

# 音旬

1

## 藝大プロジェクト2011

### 「元禄～その時、世界は？」

三月十一日の東日本大震災以来、安全上の理由で演奏会開催を見合わせていた奏楽堂で、この五月から演奏会が再開された。

その口火を切ったのが、今年度から装いも新たにスタートした藝大プロジェクト「元禄～その時、世界は？」シリーズで、五月七日に第一回「江戸の音風景～歌舞伎と文楽」、五月十五日に第二回「琳派の美、ロココのころ」が開催された。

前期二回、後期三回の計五回のレクチャー＆コンサートからなるこのシリーズは、エポックメイキングな時代を取り上げ、日本と世界を徹底的に比較することでの時代の芸術状況を明らかにしようという、音楽・美術両学部の垣根を越えた全学的なプロジェクトである。後期は十月八日の「西と東～もしも鎖国がなかったら」を皮切りに、三回の演奏会を予定している。

2

## 奏楽堂ホワイエ常設展示

### 荻原硯山「女」(ブロンズ複製彫刻)

#### 除幕式

四月二十一日、本学奏楽堂において、荻原硯山の彫刻「女」の除幕式が行われた。

彫刻が有する物語性と具象彫刻が持つ一種の華やかさは、日々演奏会がおこなわれる奏楽堂ホワイエの広い空間に彩りを添えるにふさわし



奏楽堂ホワイエ常設展示 萩原碌山「女」(ブロンズ複製彫刻) 除幕式

右：萩原碌山「女」 左：奏楽堂ホワイエにおける除幕式

2



【映画音楽 研究と創作】シリーズ 監督小栗康平が語る映画音楽

音楽学部アトリエゾンセンターにて

3

く、常設として展示されることとなった。

この彫刻は、アーカイブ研究における最新のコンピュータ三次元画像処理技術を使い、東京国立博物館所蔵の重要文化財であるブロンズ彫刻、萩原碌山作「女」の復元研究をおこなった精緻な複製である。本物の芸術作品に手を触れることはできないが、この複製彫刻は、お客様が直接触れることが可能である。

3

### 【映画音楽 研究と創作】シリーズ 監督小栗康平が語る映画音楽

二月十九日、本学音楽学部アトリエゾンセンターで、「監督小栗康平が語る映画音楽」を開催した。アトリエゾンセンターでは映画音楽のシリーズ企画を継続して実施し、音楽と映画・映像との関係についてさまざまな角度から考える機会を設けており、今回の企画もその一環である。

今回は、国内外で高い評価を受ける映画監督、小栗康平氏をお迎えし、本学音楽学部の西岡龍彦教授らが聞き手となり、音楽と映画にまつわるさまざまなお話をうかがった。音楽が単に映画の中の情景やキャラクターの心情を伝えるというあり方にとどまるのではなく、むしろ現実と映画の世界を引き離して抽象化する役割を重視しているというお話など、小栗監督の哲学観があふれる興味深いお話であった。

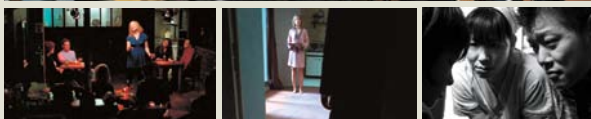
後半には、小栗監督の代表作『眠る男』をフィルム上映し、会場のお客様からは「音楽を意識しながら映画を観ることで新たな発見があった」などの感想をいただいた。



『OPEN STUDIO 2011.05.07-08』

特別演習の成果発表展における展示風景

1



日仏学生交流「交流講座・ワークショップ」

「フェミス学生作品」: 下段右から“Yolan No Haru”“Lontano”

“A Billions Laughs”(3点とも@La Fémis)

2



アニメーション専攻第二期生修了制作展

「GEIDAI ANIMATION 02 SOURCE」

河野亜季「約束」

3

TOPICS OF  
FILM AND  
NEW MEDIA

2011.02 - 07

# 映旬





映画専攻第五期生修了制作展  
横浜校地馬車道校舎にて

4



公開講座—馬車道エッジズ  
「現代映像プロデュース論 2010  
～最もホットな人の、最も新しいビジョン～」  
「監督をつくる～プロダクションI.Gの戦略」風景

5

3

### アニメーション専攻第二期生 修了制作展

## 「GEIDAI ANIMATION 02 SOURCE」

◎アニメーション専攻

五月五日から八日まで、本学横浜校地馬車道校舎において、アニメーション専攻第二期生修了制作展「GEIDAI ANIMATION 02 SOURCE」が開催された。

同展では、「SOURCE」（＝源）というテーマのもと、修士課程二年間の集大成である作品の上映を中心に、原画や人形、絵コンテなどの個人の制作過程を垣間見ることのできる展示をおこなった。また、シンポジウム「アニメーションの見方、語り方」では評論家の西村智弘氏、黒瀬陽平氏、津堅信之氏らを迎え、「アニメーション界のリーダーを作る」では本学の伊藤有孝教授、岡本美津子教授、山村浩二教授による藝大アニメーション専攻三年間の試みについて語るトークセッションをおこなうなど、そのすべてを学生が企画し、映像におけるアニメーションの現在像を多視点から照らす試みとなった。

4

### 映画専攻第五期生修了制作展

◎映画専攻

五月二十一日と二十二日の二日間、本学横浜校地馬車道校舎において、映画専攻第五期生修了制作展が開催された。

当初は三月開催の予定で、先の東日本大震災の影響により延期されたものの、関係者のご協

力により五月に開催することができた。会期中は、修了制作五作品が上映され、両日共に入場者多数、盛況に終わった。

また、その後、七月七日から十五日までの間、ユーロスペース（渋谷）でのレイトショー上映もおこなわれ、同様に修了制作五作品が上映された。

5

### 公開講座—馬車道エッジズ

## 「現代映像プロデュース論 2010 ～最もホットな人の、最も新しいビジョン～」

◎アニメーション専攻

アニメーション専攻では、コンテンツの企画や事業スキームを設計するプロデューサーの役割に注目した公開講座をおこなっている。

一月二十八日から二月二十五日までの間、「才能発掘の場としてのフェスティバル」と題し、し広島国際アニメーションフェスティバルのディレクターである木下小夜子氏を、「インデペンデント監督のプロデュース論」と題し「イヴの時間」プロデューサーの長江努氏を、「アニメの製作スキーム」と題し電通の亀田卓氏を、「監督をつくる～プロダクションI.Gの戦略」と題し「GHOST IN THE SHELL」攻殻機動隊」のプロデューサー石川光久氏を、そして「NHK みんなのうた」壮大な才能開拓プログラム」と題し株式会社NHKエンタープライゼスエグゼクティブ・プロデューサーの飯野恵子氏をお招きし、本学の岡本美津子教授とともにプロデュース論を論じた。

当講座は横浜市の協力により今年度も継続予定。将来的には、プロデュース論の確立と、プロデューサーネットワークの構築をおこなうことをねらいとしている。

1

### メディア映像専攻修士一年による 特別演習の成果発表展

## 「OPEN STUDIO 2011.05.07-08」

◎メディア映像専攻

メディア映像専攻の修士一年生による特別演習の成果発表展「OPEN STUDIO 2011.05.07-08」が開催された。

特別演習は、本学の藤幡正樹教授が三週間にわたり担当。カメラ・オブスキュラの制作にはじまり、ビデオカメラによる撮影・編集実習などを通して「映像とは何か」から「作品と他者性」について探索してきた。そして、演習における到達点として他者に見せる機会を設定し、特別演習の成果作品を普段の制作現場を展示空間に変えた「OPEN STUDIO」として発表した。

2

### 日仏学生交流 「交流講座・ワークショップ」

◎映画専攻

五月三十日から六月十日までの間、横浜校地において、フランス国立映画学校（La Femis）と大学院映像研究科による交流講座とワークショップが開催された。

この講座とワークショップは、映画プロデューサーを志す日仏両国の学生たちの交流を目的とし、在日フランス大使館の協力を得ておこなわれた。学生たちが広範な知見を得るとともに一線で活躍する映画人との繋がりをもてるよう、講座においては、実際に映画産業に携わる講師を多数招くという配慮がなされた。学生たちは授業内外を問わずお互いの親交を深め合った。